

東北レポート A 岩手県コース 参加者：小野 弘賀

11月5日は世界津波の日。皆様は、ご存知でしたか。

岩手県コースの始まりはこの日、11月5日でした。

津波の日が出来たことは覚えていましたが、不覚にも今日だったとは。

今回、一昨年（宮城県コース）に続いて2回目の東北復興支援に参加させていただきました。

2年前と同じくJR常磐線はまだ不通でJR在来線での東北入りは難しいままで、何も変わっていなかったのが、今回は空路仙台入りしました。

名物の「牛タン」を家族と親戚へクール便で配送を依頼し前日泊で盛岡へ向かい、この日を迎えたのです。

盛岡からの車中で事務局から、午後から三陸鉄道の震災学習列車へ乗せてもらえるという聞き、あの三陸鉄道に乗れると期待に胸が躍るようでした。

まず、午前は傳承園で古民家の家屋を見学するのですが、入口付近で懐かしいにおいが。今年還暦を迎えた私と同世代であれば経験したであろう「肥溜め」のおいでした。当然悪臭に違いないのですが、昔の田んぼには必ずといっていいほどあった「肥溜め」の懐かしいにおいだったのです。

そこでは売店で、サービスのりんごを頬張りながら、家族と職場同僚へのおみやげを購入しました。（りんごは量と重量の問題で断念。でも、おいしかった）

午後は期待にワクワクの三陸鉄道、でもトラブル発生、ツアーのお一人が行方不明になり結局、後発列車に乗るといったハプニングがありました。

列車内では、案内人の説明を聞きながら、ひとつひとつの港や湾を眺めると、堤防の高さの違いや完成度の違いがあるのですが、完成している堤防はひとつもなく、まだ工事途上の印象を受けました。

津波を完璧に抑える堤防か、今のままの高さで避難する時間を稼げれば良いとする考え方にするかで、それは堤防が高すぎると海が見えなくなることと比較して、究極の選択を余儀なくされているようです。

さらに列車の車窓から眼下の畑を見ていると、ひとりのおばさんが立っているのが目に入りました。その時、自分でも無意識にですが自然に右手を挙げて振っていました。

すると、まさか、次の瞬間にその人が手を振り返してくれたのです。

私が驚くような声を上げると、向かいに座っていた校友が「振ってくれましたね」と同調するように言ったので、私の子どものような仕草を見られたかと思うと恥ずかしい気持ち反面、このツアーでの最高の収穫になるだろうと感じました。

夜の勉強会では、老若男女4人の校友から地震前後の貴重な話を聞き（時間

が足らなかった)、夕食後は一室に籠っての宴談と楽しませていただきました。

そうした体験談と夜の宴談を聞かせていただいた翌日は、奇跡の一本松、夕ピック45（遺構）と名勝中尊寺を見学させていただき、一ノ関で解散させていただきました。

JRで一ノ関から仙台まで2時間かけて列車で移動し、広大な田園風景を見ながら、今回のツアーを想いかえしていました。

県内を移動中に見た新しい大きな建物には、ほとんど大きな水位計のような震災時ここまで水が来たことを示す表示がありました。

しかしそれ以上に、この建物は遺構に決定しましたなどの案内も多く、それらの決定も今でやっと決まりつつあると感じて、復興の遅れを痛感しました。

復興など到底まだまだ途上ですし、被害にあわれた人々は、さらに台風などの自然災害をさらに被られていると聞いています。

まだまだ支援は必要です。私は自分の近くの人へそれらを伝達し、支援の輪を広げる努力をしていきたいと思いました。

2年前、ささ圭さんの会社前で送った立命館大学の応援エールを、今一度送りたいと思います。「フ～レ～、フ～レ～、ど～う～ほ～く・・・」

終話